

北京大学図書館の

女性図書館員の位置づけ

一 はしがき

だいたい五年前、私は北京大学図書館の一員として早稲田大学図書館の心のこもったご招待をいただき、そこで半年ほど研修・視察する機会があった。その研修・視察の間、業務の面でいろいろ教えられたほかに職員の方々との日常の触れ合いを通じて、少なからぬ友人ができた。ふだんの話し合いの中で北京大学図書館員の仕事や生活もときどき話題になっていた。私は女性であるためか、女性図書館員の状況についてのご質問が多かった。

北京大学図書館の女性図書館員の位置づけ

薛 晶 如

そこで先日「紀要」編集委員会から「図書館員論―現状と展望」について執筆のご依頼を受けたとき、直ちに北京大学図書館の女性図書館員の事情を書いてみようかと思った。でも、これは整った論文でもないし、綿密な調査の結果でもない。ただ私個人の経験談として中国の大学図書館、特に中国の大学図書館員の事情に関心や興味を持っておられる日本の皆様の一つご紹介してみたいと思う。

二 背景資料

本題にはいる前、その背景として北京大学図書館の規模と館員全体の概況について簡単な紹介を致す。

北京大学図書館は一九〇二年に創建されたもので、現在の蔵書数は四〇〇万冊余りあり、そのうち古代書籍が一五〇万冊余り、価値の高い善本書籍が一六万冊ある。年間に一〇余万冊の国内外の図書と六千種余りの定期刊

表 1

専任職員：256名	
男 性：92名	女 性：164名
既 婚 者：231名	未婚者：25名
管 理 職：27名	(館長：1名 副館長：2名 事務長：1名 人事係：1名 部・研究センター主任(正・副)：22名)
専門職員：175名	非専門職員：81名
臨時職員：数十名	学生職員：なし

行物を購入している。

なお図書館員全体の概況は表1に示す通り。

三 定年まで働きつづけるのは

最大の特徴か

中国でも外国でも伝統的に図書館員には女性が多いことは各国の図書館の共通点であろう。この面で北京大学図書館も例外ではない。

さて、図書館員全体の過半数を占めている北京大学の女性図書館員は外国の、例えば日本の女性図書館員と比べて、特に際立った違いは何か。これは日本滞在中も帰国後もよく友人や同僚から聞かれたご質問であるが、これは人によって、着眼点によって答え方が違い、定説がないと思うが、私が日本で見たとことと比べてみた感じでは、在職年数が違うのは一つの際立った相違ではなからうかと思う。

日本では、女性図書館員は就職しても結婚、特に出産、育児の時期になると、「仕事か家庭か」の選択をせ

まられて職場を離れざるをえない場合が多いようである。そこで女性の就業はいわゆるM型を示し、二〇歳代後半になると激減し、三〇歳代後半で再び増加に転じるという傾向があるという。そこで女性の在職年数は比較的短いわけである。

近年、結婚しないで職場で活躍を続けたり、結婚しても離職しない女性図書館員が次第に多くなってきたとのことであるが、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に基づく既成観念はいまだに根本から変わっていないようである。

これに反し、中国では女性図書館員のみならず女性サラリーマン全階層が結婚や出産、育児の時期にも離職せず、男性と同じように定年まで働きつづけるのが普通である。そこでその在職年数もそれだけ長くなる。

ちなみに、北京大学の図書館員の定年退職の年齢は教員と同じように男性は六〇歳、女性は五五歳。但し、高級の資格（研究館員、副研究館員）を持つ人は男女とも六五歳まで延長できる。現在、北京大学図書館の女性図書

北京大学図書館の女性図書館員の位置づけ

館員の最年長者は六二歳、平均年齢は三八歳、在職年数が三〇年を越えた女性図書館員はすこしも珍しくない。

ところでなぜ中国の女性サラリーマンは出産・育児の期間になっても退職しなくて済むのであろうか。これについては次の原因があげられるかと思う。

(1) 政府の「一組の夫婦に子供一人」というよびかけに応えた女性は出産後、半年間の有給休暇がとれる。これは人口膨脹を抑制するため奨励措置の一つであるが出産後の最初の難関を乗り切るのにたいへん役立つことはいうまでもないであろう。

(2) 中国の工場、機関、学校などのサラリーマンの集中している部門ではたいいてい従業員や教職員の仕事と日常生活に都合のいいように、その構内か近所に宿舍、食堂、託児所、幼稚園などの生活施設を設け、しかもその費用も割合安い。これは女性サラリーマンが仕事をするかたわら家事や育児をするのにたいへん便利である。

(3) 子供を出産すると退職して奥さんとしてもっぱら家事や育児をするような生活にあこがれる人はないわけ

ではないが、夫一人だけの賃金で少なくとも家族三人を扶養せねばならぬことは困難なので現実的ではない。

(4) 圧倒的多数の女性は単調な専業主婦の生活よりむしろ経済的にも精神的にも独り立ちできるような女性サラリーマンの生活の方が充実的だと考えているようである。

四 男性と同等の機会を持っている

女性が男性と同様に定年まで働きつづけることは女性図書館員の発展と実績の獲得には実に有利な条件である。時間の余裕があると、いろいろな分野に進出できるようになる。そこで実績もそれぞれ多くなる。これは女性全体の地位の向上にも繋がっている。したがって、私達女性図書館員はあまり性別差による差別を感じない。現在、女性職員はわが館のほとんどの職場で活躍しており、しかも着実な実績をあげている。次に、このことについて、女性職員の資格取得状況と中間層管理職昇進を例にとって述べてみる。

ここでいう資格とは大学教員の資格と同じように大学図書館の専門職員の方に設置された研究館員、副研究館員、館員、助理館員、管理員という五階段からなる職階のことである。そのうち、前の四つの資格はそれぞれ大学の教授、助教授、講師、助手に相当し、その資格の申請、審査、授与などの方式もほぼ同じである。

次の表2は現在専門職員中の各種の資格の人数を男女別に統計した結果である。

表2の統計結果を見れば次のことが言えると思う。

確かに高級レベルの方へ行くほど女性の占める割合が小さくなり、さらに、男女全体の構成比に対してみれば女性の占める比率がもうすこし落ちると思う。しかし、全体から見れば女性が占める割合はどのレベルでも少ないとは言えないであろう。中でも高級レベルの女性職員が四六%にもなっていることと中級レベルの女性数が初級を上回っていることは十分に女性図書館員は北京大学図書館の中の重要な存在であることを物語っていると思

う。
 例えば高級資格を持つ女性職員のうちには一九五〇年代から北京大学図書館で仕事をつづけてきたベテランの人もいるし、各自の担当している仕事のほかに、積極的に職業に関する活動にたずさわっている人もいる。その活動内容には著作とか翻訳とか講義、講座、特定テーマ

表 2

等級別	資 格	男性数	女性数
高 級	研究館員 副研究館員	19 (54%)	16 (46%)
中 級	館 員	37 (47%)	42 (53%)
初 級	助理館員 管 理 員	21 (34%)	40 (66%)

注：パーセンテージは男女が各レベルでそれぞれ占める割合

に関する研究の担当とかいろいろある。それからわが館の利用している北京大学図書館の各部門の規則・規定のほとんども女性職員が書いたものである。要するにこれらのベテランの女性職員はみな業務や職業に関する活動の面で先頭にたつて先導的な役割を果たしている人たちである。副研究館員のSさんは六二歳になるベテランの人で、一九七九年以来、ずっと中国図書館図書分類法編集委員会の委員を兼任しており、中国図書分類法の専門家としていまでも活躍している。五四歳になる副研究館員のXさんは全国二八の大学図書館が協力して開発中の中文圖書の機械可読目録データベース製作中の品質をチェックするグループの組長を兼任している。

ところで女性職員の管理職昇進についてであるが、館長、副館長（二名）と事務長はみな男性ばかりなので例外であるが、受入れ部、整理部、流通部などの一〇の部レベルの正・副部主任やアメリカ研究センター、カナダ研究センターなど三つのセンターの主任（副主任なし）レベルのような中間層管理職には、女性の人数がかなり多

表 3

	男 性		女 性	
	正	副	正	副
受 入 れ 部		○	○	
整 理 部		○	○	
流 通 部	○			○
閱 覧 一 部		○	○	
閱 覧 二 部	○			○
学 習 参 考 部			○	○
逐 次 刊 行 物 部	○			○
オートメーション化部	○	○		
出 版 編 集 部	○			
文 献 サ ー ビ ス 部	○	○		
ア メ リ カ 研 究 セ ン タ ー			○	
カ ナ ダ 研 究 セ ン タ ー			○	
ソ 連 研 究 セ ン タ ー	○			

い。具体的に言うとな男女二二人中、女性は一〇人にもな
 っており半数近くを占めている。その内訳は次の表3の
 通り。

この統計結果から男女の業績が同等の場合は管理職昇
 進の機会も同等という原則は少なくとも中間層管理職レ
 ベルでは通用していることが分かる。

なお、女性の管理職につく条件として、日本の場合は
 能力や勤務態度のほかに一つの図書館に継続して勤務で
 きるかどうかが重要視されているのに対して、中国では
 女性のほとんどが定年まで働きつづけるので注意の焦点
 は勤続年数ではなく、主として能力と勤務態度である。
 それから、わが館の管理職には男女間の賃金の格差もな

い。賃金は個人個人の在職年数と資格によ
 って決められる。ところでここに一つ注
 すべき問題があると思う。つまり、わが館
 で場合によっては、女性の生理上の特徴を
 無視して男女の別なく女性にとって無理な
 重労働をも女性職員にやらせる傾向がある
 のではないかと思う。それを避けてほし
 い。

五 女性図書館員の問題点と悩み

上述の通り、女性は男性と同様に定年ま
 で働きつづけるおかげで、能力の発揮や業

續の取得の面で基本的に男性と同様の機会を持つことになった。そういうわけで女性は中・高級の資格を持つ人も、中間層管理職者の数もかなりの比率を占めており、少なからぬ実績をあげている。しかも経験が豊富で実績が著しいベテラン女性職員もかなり出ている。これらはみな女性図書館員が誇りに思っている所である。

ところが、一方、男女の構成比に対してみれば高級資格の所有者も、中間層管理職者も男性より女性の方が少ないということも認めざるをえない。その原因はいろいろあると思うが、ここでそれについて、特に女性職員がぶつかっている特殊な問題を中心に女性図書館員の困難と悩みを一つ見てみる。

まず、男性は数では少ないが、そのうち、採用当時、学歴もキャリアも高い人たちがかなりいて、その人たちの占める比率が高い。これは原因の一つだと思う。例えば、ある副館長や一部のベテラン男性職員はこの図書館にはいる前から、図書館に勤めた経験や著作がある人である。それから数年前、十人ほどの中年層教師が図書館

北京大学図書館の女性図書館員の位置づけ

に移され、そして、まもなく全部高級の資格を授けられた。そのうちの大部分が男性である。これらの人びとが人数がそれほど多くないが、その多くは高級の資格をもっている。逆に女性職員の方には学歴もキャリアも高い人は少なくないが、男女の構成比に対しては割合が低く、それに加えて学歴の低い人が占める割合は男性より高いのだから、結局全体としては男性が優位に立つことになる。それに、レベルの高い男性職員はいったん研究などをするような職場に配置されると、その毎日の仕事は著作だから、実績も著しいことは言うまでもない。

それから同じ図書館員といっても一般的には男性の家庭負担が女性よりずっと少ない。これは男性にとって実に有利な条件であらう。

しかし、これに反して、仕事と家庭という二つの重荷をかついでいる女性図書館員として男性に劣らない実績をあげようとすることは決して生易しいことではない。家庭面のさまざまな現実の問題が女性図書館員に一連の困難をもたらし、仕事と家庭を両立させるには数多くの

困難を克服しなければならない。この面で一女性図書館員として私は切実な経験がある。出産や育児はもとより、毎日の日課として食事の仕度、掃除、洗濯、買物などもすべて八時間の勤務時間以外にしなければならぬので、退勤後の慌しさが考えられる。その上、午前中の仕事は冬も夏も朝七時半からなので、大学の近くに住んでいるとはいえ、やはり大変なことである。それに大学などのような部門では、やはり家が近くにあるということとで教職員はたいいてい自宅で昼食をとる。そこで、もともと仕事や家事に忙殺されている女性にいつそう大きな負担がかかってくる。もっとも共働きの多い中国の家庭の場合には、夫がある程度手伝ってくれるのが普通であるが女性が主役をしているのも常識である。

このような悪条件の下で女性職員は何か新しい知識を学ぼうとしたり自己研修をしようとしても、夜にしなければならぬ。場合によっては子供の宿題の面倒を見終って寝かせてからでないとできないほどである。

次に資格授与の制度と女性職員との関係をすこし考え

てみる。

いうまでもなく、大学教員の場合と同様に大学図書館員にも資格を授けることはたいへん有意義なことである。この制度は、大学図書館員は名ばかりではなく、賃金や住まい配分の面でもそれ相応の大学教員と全く同等の地位にあることを意味するのだから、それは大いに図書館員の社会的地位を高め、ひいては彼らの職業意識を高めたのである。つまり、この制度の設置は世間の人びとの見方は別として、少なくとも館員自身に心理上の平衡をもたらし、しかも図書館員が仕事への創意性を発揮するのにもたいへん役立つと思う。

ところが、一方ではこの制度は一部の図書館員にかかってくる圧力も大きいものである。中でも一部の三〇歳代後半、または四〇歳代になる女性職員中の勤続年数が長く、かなりの経験を積んでいるのに、採用当時の学歴が低いため、いまだに中級または高級の資格がとれていない人びとにとっては、仕事のかたわら必修課目の不足をいちいち補う時の辛さは想像できることであろう。

だが、喜ばしいことには広汎な女性図書館員は困難に
めげず、ひきつづき自信たっぷり前進している。

ある文学作品に、すこしも利己的ではなく、自分のす
べてを家族の人たちや社会全体にささげる女性の純潔で
気高い献身的精神を月に譬えている描写がある。私たち
女性図書館員はそれを議論する時、「いや、お月さんは
明るくてきれいだけれど、太陽の光りを受けて発光して
いるのだから、つまらない。私たちは太陽で自分でびか
びかと発光している。」とユーモアたっぷりな口ぶりで
訂正した人がいたが、みんなうなずいた。

(セツ ショウジヨ 北京大学図書館)